

平成二十六年第一回定例県議会 提案理由説明要旨（三月三日追加提案）

ただ今上程されました諸議案について説明申し上げます。

追加提案しました議案は、第五十三号議案から第七十号議案までの十八件であります。

まず、一般会計補正予算案について、第五十三号議案及び第七十号議案を合わせて説明します。

（雪害対策）

昭和五十九年以来三十年ぶりの大雪となり、本県にとって重要な農林業では、県下全域で降雪によるハウスの倒壊などの被害が出ています。

県としては、被災直後に今回の雪害を特定災害に指定し、運転資金や施設の復旧資金を貸し付ける農業近代化資金等の融資枠を拡大するとともに、最大で無利子となるよう利子補給も行って支援することとしています。

しかしながら、今回の雪害は、生産者にとっては大変大きな負担となっており、再建を諦める方も出てくるのではないかと、心配しているほどです。そこで、無利子融資と合わせて、倒壊したハウス等の撤去から再建に要する費用について、直接支援していくこととし、国、県、市町合わせて六割の助成としたところです。

（景気・雇用対策等）

国では、四月からの消費税率引上げも見据えて、経済対策を打ち出したところです。大分県としても、これを積極的に受け入れ、投資的事業の切れ目のない執行を図ることとし、約七十五億円を追加します。これにより、河川の築堤、護岸の整備や道路の落石防止などの防災・減災対策、トンネル、橋梁等の緊急点検やその補修、補強などの社会インフラの老朽化対策、また、東九州自動車道や庄の原佐野線といった道路ネットワークの整備などを前倒して実施します。これに加え、道路整備等の事業進捗などを図るため、債務負担行為として約三十五億円を追加します。

このほか、雇用の創出や林業の再生などを図る国の交付金を基金に積み立てます。

（南海コレクション）

また、健康保険南海病院のいわゆる南海コレクション五十点について、県において取得することとし、所要の資金二億円を大分県美術品取得基金に積み増します。

南海病院については、社団法人全国社会保険協会連合会が経営していますが、二十六年四月に、地域医療機能推進機構に引き継がれることになっています。その際、病院運営に直接必要ない資産について現金化する方針が出されており、南海コレクションについても、これまで寄託を受けて管理してきた経緯のある県に対し、売却の打診がありました。

南海コレクションは、二十世紀前半、パリを中心に活躍した画家や、当時そのパリで学んだ日本人画家の作品のコレクションで、歴史的にも貴重なものであり、県の財政状況等を考慮した上でなお、取得が可能であればと思い、交渉を重ねてきたところですが、今回、評価額からこれまでの管理経費を差し引いた額で協議が整ったものであります。

（その他歳出）

他方、年度末にあたり、災害復旧関係費や中小企業制度資金及び人件費について、最終的な執行状況を勘案し減額を行い、併せて予算執行における節約額等を減じます。

この結果、差し引き補正額の合計は、六十六億四千五百四十二万六千円の減額となり、一般会計予算の累計は、五千七百九十一億四千二百二十六万九千円となります。

以上が、予算の概要であります。

歳入予算の主な内訳は、県税 三十三億円、地方交付税 二十九億八千九百余万円、国庫支出金 九十三億五百余万円のそれぞれ増、繰入金 百三億三千百余万円、県債 四十五億二千百万円のそれぞれ減であります。

なお、財政調整用基金については、景気を持ち直しに伴う法人関係税等の県税収入の増や職員給与の特例減額、行革による節約等の結果、当初予算で繰り入れていた百五十七億円のうち百三十三億七千六百余万円を繰り戻したことから、二十五年度末見込みは、四百二十八億円を確保できます。

また、県債残高は、国の補正の受け入れに伴い三十億一千万円を追加発行しますが、台風などに備えていた災害復旧関係費の減や、国の臨時交付金の活用による発行抑制等により、三月補正段階で一兆五百八十一億円となり、残高の総額が七年ぶりに減少となります。

このほか、特別会計では、公債管理特別会計など十一の会計で合わせて十四億四千七百五十五万五千円を減額するとともに、企業会計では、病院事業会計など二つの会計で、五億八千八百万二千円を増額しています。

以上をもちまして、提出しました諸議案の説明を終わります。

何とぞ、慎重御審議のうえ、御賛同いただきますようお願い申し上げます。